

清記用紙(番号)

用紙(番号)

桃

写

1	アングイスの隘を一舐め新酒かな
2	金印の傍の字まはゆー新酒汲む
3	新酒酌む背筋正してと目
4	妻見舞ふ白々の残暑の弛む無し
5	豊年の大地の中の道一本
6	駅弁の短き箸や今年酒
7	留守宅や盗人萩の横行す
8	句のごとく並に転かし今年酒
9	若々ー古希と祝つて今年酒
10	飛び入りの手は奔放に阿波踊

選句用紙

代表

選者名

へちま

1	歸りゆくゴジラの尻尾秋初め
2	大空や胸一杯に稻かほる
3	低頭に幣 ^の 巾 ^の 清らを受けて秋
4	秋うれしハンドパペットの予報士
特	後添を持たぬつれづれ秋彼岸
特	飛び入りの手は奔放に阿波踊
特	ただ海を見ているだけの夏帽子

子どもあいてして
ゴジラの尻尾かき
またしほがあきして
いる

ゆきお
大にさくらさくら
こころまじかみ

秋のきん
くふふ
こころ

秋うれし
なま

耳もちふた
早くも

あふあふし
はなはな

この秋は
る海

この秋は

選句用紙

選者名

安藤町彦

1	土あめま虫の声あり眠る路地
2	始まらぬ恋を 終 るはらせ夜の桃
3	鬱鬱といふ二十九画乱れ廿秋酒
4	銘のあるくい春みにかへ新語干す
5	夕刊に昼肉の余熱秋暑し
6	低頭 ^{へい} に ^き 幣の清らを受りて秋
特	曲 ^{まが} り丹の大地の中の道一本

選句用紙

選者名

宮本 乙子

1	嵯峨野まてお供しませう金 の 月
2	金印 の 倭 の 字まがゆし新酒 は み
3	駒井 の 短き箸や今年酒
4	後 のち 添 そ ち持 も ちぬつれづれ秋彼岸
5	アニ ニ テス の 塩 を 一 ひと 粒 め 新酒 が なる
6	たが海を見こ こ いる古 いにし け の 夏 なつ 帽子
特	豊年 の 大地 の 中 の 道一本

選句用紙

選者名 上 田 秋 霜

1	金の翅 はね 思い思いに秋甚
2	アングスの塩を一舐 な め新酒かな
3	句のごとく舌に転がし今年酒
4	今日も又予後の散歩や秋時雨
5	鬱 ふさ といふ二十九画 か 乱れ萩
6	嵯峨野までお供しませう盆の月
特	あらばレリ母のかがりし羽織かな

選句用紙

選者名

二 晃

1	天窓に透けて晩夏といふ時間
2	秋はいめ恋の魔法が解けたとき
3	瀬戸内の塩をひとふり新豆腐
4	荒走り肴は土佐の一夜干し
5	鈴虫や母の無い子の子守唄
6	再会に交はす新酒や取替夜に
特	ふるさとは母屋と紙屋と葉鵲頭
8	
9	
10	

選句用紙

選者名

太陽

特	6	5	4	3	2	1
秋はじめ恋の魔法が解けたとき	金の翅 ^{はね} 思い思いに秋蒔	嵯峨野までお供しませう盆の月	星月夜ゴッホの淵を探しをり	駄弁の短き箸や今年酒	どや顔の秋刀魚の腹を搦 ^{つま} み上ぐ	ふるさととは母屋と納屋と葉鶏頭

R7
9/14

南柯

選句用紙

選者名

たてし

ほんほうに

特	6	5	4	3	2	1
特選の(4)に入る。銀杯今朝の秋	ら捕りに行けずに秋となりけり	役目終え尚も一往儀に立つてをうらまへし	吟味や母の世にのみ子に思	傘のふもとにふかき花野やあめ		飛で入りの手は女将に阿波まどろ

選句用紙

選者名

白田 野千代

1	傘の音とさくらさくら花野かな
2	一旋回してより秋の蝶となる
3	天窓に透して暖夏といふ時間
4	頬戸内の塩をひとつ新豆腐
5	表彰に縁なく生まれて法師蟬
6	ふるさは母屋と納戸と世無鶏頭
特	古たぬを見ているだけの夏帽子

選句用紙

選者名

近藤和草

1	瀬戸内の塩をひとふり新豆腐
2	始まらぬ恋を了 ^{おは} はらせ夜の桃
3	鬱 ^{うつ} といふ二十九画乱れ萩
4	帰りゆくゴジラの尻尾 ^{しっぽ} 秋初め
5	一 ^{いっ} 旋 ^{せん} 回 ^{かい} してより秋の蝶となる
6	秋の酒まことしやかな噓に酔ふ
特	秋はじめ恋の魔法が解けたとき

選句用紙

選者名 福田洗弥

1	白の花盃二つ今年酒
2	始まらぬ恋を了ほらせ夜の桃
3	杉玉の色を窺 ^{うかが} ひ新酒待つ
4	秋めくや屈託のな ^い 山羊の髭
5	鶴橋の塩井クニに檸檬 ^{やもん} と ^う や
6	どや顔の秋 ^{あき} 刀魚 ^{さかな} の腹を摘みよぐ
特	役目終え尚も律儀に立つ宋山子

選句用紙

選者名

英、タツ

特 ▽	6 ▽	5 ▽	4	3 ▽	2 ▽	1 ▽
切り子猪 ちよ 口 くち 透 す かし新酒 しんしゅ の飲 の みくらべ	低頭 ていとう に幣 ぬさ の清 きよ らを受 う けて秋	石 いし ころの静 しず かに眠 い る律 りつ の調 しら べ	かなかなに暮 く れゆく九重 ここのへ 坊 ぼく ヶ鶴 つる	後 のち 添 そえ を持 も たぬつれづれ秋彼岸 あきのかた	懐 ふと に狐 きつね の剃 かみ 刀 さき 門出 もんで かな	葉 は 尽 つくし の空 から 注 つ ぐつくつくし

選句用紙

選者名 山崎 たか

特	6	5	4	3	2	1
銘のあるぐい呑みにかへ新洒干す ^ほ	秋天の臍 ^{へそ} へ紙飛行機刺さる	星月夜ゴツホの端を探したり	お供えは少し辛口あらばしり	瀬戸内の塩をひとふり新豆腐	豊年 トヨトシ の大地の中の道一本	お抹茶をすすずと吸 ^す い上げ秋暑 ^{アキナツ} し

選句用紙

選者名

— 止

1	荒走り肴は土佐の一夜干ー
2	秋湿り甘き匂いの凹工室
3	蜘蛛の匡に光る銀粒今朝の秋
4	始まらぬ恋を了はらせ夜の桃
5	大空や胸一杯に稻かほる
6	土あれば虫の声あり眠る路地
特	ふるさとは母屋と納屋と葉鶏頭 はけりとう

選句用紙

選者名 服部 梅句

1	始まらぬ恋を了はらせ夜の桃
2	大将のこたわり並ぶ新酒かき
3	夕刊に昼間の余熱 秋暑し
4	格子戸に「新酒あり」 ^{ママ} 一歩入る
5	土あみは虫の声あり眠る路地
6	秋日の風と葉木の混じる道
特	亡き母の書 ^{しよ} 如木に残せし拾 ^{ひろ} 団 ^{うち} 扇 ^{あふ}

選句用紙

選者名 山下疾風

1	2	3	4	5	6	特
星月夜ゴッホの渦を探しをり	鬱 ^{モロ} とふ二十九画乱れ萩 ^{はぎ}	再会に交はず新酒や可 ^あ 惜 ^た 夜 ^よ に	今日もまた予後の散歩や秋時雨	低頭 ^{ていとう} に幣 ^{ぬき} の清 ^{きよ} らを受けて秋	秋天の臍 ^{へそ} へ紙飛行機刺さる	新走 ^{あらうばり} 杜氏の気魄 ^{きぼく} も育 ^{はぐ} みて

選句用紙

選者名 真一

1	2	3	4	5	6	特
新走 ^{あらすし} 杜氏の気魄 ^{きやく} も育みて	夕刊に昼間の余熱、秋暑し	秋の酒まことしやかな嘘に酔ふ	天窓に透けて晩夏といふ時間	秋めくや屈託 ^{くつとく} のない山羊 ^{いけ} の影此	瀬戸内の塩をひとつり新豆腐	蜘蛛の罅に光る銀粒 ^{ぎんりゅう} 今朝の秋

選句用紙

選者名 関 洋子

1	目に口にからまゝてゆく今年酒
2	星月 ^ノ 夜ゴッホの渦を探しをり
3	ふるさとは母屋と納屋と葉鶏頭
4	染まりゆく生駒連山秋の暮
5	飛び入りの手は奔放 ^{まんげつ} に阿波踊
6	秋 ^{いみ} 湿り甘き匂いの凶工室
特	夕刊に昼間の余熱秋暑し

選句用紙

選者名 上室泰千

1	豊年の大地の中の道一本
2	ただ海を見ているだけの夏帽子
3	土あかば虫の声あり眠る路地
4	格子戸に「新酒あり」 まき 一歩入る
5	役目終え尚も律儀に立つ案山子
6	駅弁の短き箸や今年酒
特	嵯峨野までお供しませう盆の月

選句用紙

選者名 白井桃紅

1	爽涼や勝ちなきし一生「ハルウララ」
2	愛しさは時の流れに揚げ花火
3	ふるさとは母屋と納屋と葉鶏頭
4	秋めくや屈託のない山羊の鬚 ひげ
5	今日もまた予後の散歩や秋時雨
6	天窓に透けて晩夏といふ時間
特	飛び入りの手は奔放に阿波踊

選句用紙

選者名 平 華

特	6	5	4	3	2	1
盃交わす光をすくし新酒かな	役目終之尚も律儀に立つ案山子	どや顔の秋刀魚の腹を摘み上げ	万博の行けずになりになり	金印の傍のうすまばやし新酒波む	剣を抜き花を落とすか秋葵の実	子も孫も居らぬ昼餉や敬老日